

岩手県立高田高等学校 広報



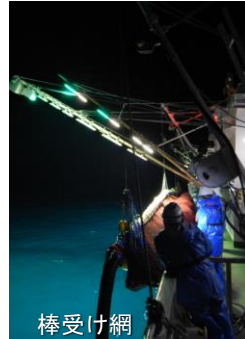
第 14 号

八重の汐

技 訓
至 誠
錬 磨
創 造

サンマ棒受け網実習

十月十八日(月)から、二十二日(金)にかけての四泊五日、海洋システム科二年生の海洋科学コース生徒八名が、岩手県水産系三高校の共同実習船「海翔」を利用して実施された、サンマ棒受け網実習に参加しました。



棒受け網

今回実習した「サンマ棒受け網漁」とは、サンマの習性を利用して日没から夜明けにかけて行われる網漁です。一般的に魚には、夜、光に集まる習性があります。サンマは特にそ

夜の網漁は幻想的でした



その代わり、棒受け網の工程の見学や、ロープワーク実習、「海翔」と同じ共同実習船である「りあす丸」の見学をし、海洋科学の学びを深めることができました。



ロープワーク

の習性が強く、大群をなして海面の上層を回遊します。そして、一度光が集まると、同一方向に旋回運動をして容易には離れないので、この習性を利用して、棒受け網に誘導して漁獲するのがこの漁法です。

実習期間中、天候が悪かったことと、近年、サンマの漁場が三陸沖の陸地から遠く離れた海域に移動していることで悪天候の影響を強く受ける危険性があつたことから、実際にサンマを水揚げしての実習はできませんでした。



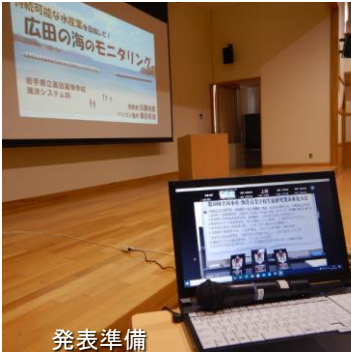
食事の準備

第二十回全国水産海洋高等学校生徒研究発表東北地区大会

十月二十九日(金)、第三十回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表東北地区大会が開催され、発表者として本校から、海洋システム科三年海洋科学コースの佐藤未菜さんと、柴田拓海さんが参加しました。



実習終了！大船渡港に帰港です！



発表準備

東北地区大会は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、リモート

での開催となりました。佐藤さんと柴田さんは、「持続可能な水産業を目指して」広田湾の海の「モニタリング」と題して、今年六月に実施した広田湾での水質と底質の調査結果を基に広田湾の水質が気仙川の影響を大きく受けていることや、湾の奥に沈殿している泥の割合から、震災復興に向けた工事が広田湾に影響を与えていることを指摘しました。審査の結果、奨励賞を受賞する成果を挙げました。海洋システム科では、既

に実施している生態系の調査と合わせて、今後も広田湾のモニタリングを継続していく予定です。



発表の様子

陸前高田市立広田小学校の皆さんをお迎えしての水産加工品製造体験教室

十一月九日(火)の午前中、広田小学校の3年生と引率の先生方を本校にお迎えして、水産加工品製造

体験教室が開催されました。広田小学校の皆さんは、かまぼこ作り体験の他、ロープワーク体験や、操船シミュレーター体験を通して、水産業への興味関心を高めていきました。



かまぼこ作りが始まります



操船シミュレーター体験



かまぼこ作り